

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	啄木特別展開催事業			事業コード	2394
所属コード	132600	課等名	ブランド推進課	係名	
課長名	吉田春彦	担当者名	佐藤明彦	内線番号	3741
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 盛岡ブランド推進事業 (010-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	(20) 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡ブランド推進事業 4 つの主要プロジェクトの一つ「先人と文化振興プロジェクト」として、石川啄木の更なる顕彰を目的として始められた。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

平成 18 年にブランド推進計画を策定し、先人と文化振興を主要プロジェクトとして啄木顕彰を行うこととした。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 24 年に啄木没後 100 年を迎えることから、これからの 100 年もまた郷土の誇りとして啄木が愛され親しまれ続けるよう、啄木顕彰を展開する。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市民・観光客

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 見込み
A 観光客入込数	万人回	459	444	472	466	490
B 人口	万人	30	30	30	30	30

C						
---	--	--	--	--	--	--

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

- ・平成23年6月4日（土）開催した啄木祭終了後、しのぶ会を開催。
- ・平成23年8月1日（月）から企画展「啄木を愛した作家たち」を開催
- ・没後百年記念事業実行委員会及び各委員会を開催し、没後百年記念事業案を策定した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 開催日数	日	30	92	30	122	90-
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

啄木に対する市民の認知度を充実すると共に、観光客を誘致する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 観光客入込数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	万人回	459	444	472	466	490
B 来場者数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	人	550	500	600	600	600
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	300	200	1,000	1,000
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	300	200	1,000	1,000
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	12	12	20	150
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	48	48	80	600
計	トータルコスト A+B	千円	348	248	1,080	1,600
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

石川啄木に対する理解度を向上させることは、啄木に対する興味を深め、生誕の地である盛岡に住んでみたい・訪れてみたいと、選ばれる街盛岡に結びつく。

② 市の関与の妥当性

啄木顕彰のための施設として啄木記念館があるが、スタッフが十分にいないため啄木顕彰について十分な活動が行えない状況であり、市も併せてPRを行うべきであり、記念館等と共同で行うことで、より大きな効果を上げうるものである。

③ 対象の妥当性

市民と観光客を対象とした情報発信であり妥当である。

④ 廃止・休止の影響

啄木没後百年のイベントに向けて、さらに多くの市民・観光客に啄木理解を促進する必要があるため、市の支援は不可欠である。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

企画展を実施することにより常設展示よりさらに深い展示を行うことで、啄木への理解が進み、顕彰が深まる。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

広く市民・観光客に向けられたものであることから、公平・公正な事業である。

(4) 効率性評価

平成 24 年の啄木没後百年に向けて、集中した顕彰事業を行うことが必要となるので、事業費の削減は難しい。

他の団体と連携して事業を行っており、これ以上の人件費の削減は難しい。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

新しい資料による話題提供や、学芸員による解説を丁寧に行うなど、来場者に満足感を与える工夫が必要である。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

啄木関連の情報収集と学芸員の業務量増大に伴う他事業への影響が懸念される。複数人による専門的な対応が出来るよう体制を整える必要がある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

震災の影響もあり特別展を開催したものの入館者は増加しなかった。啄木没後百年記念事業との相乗効果による入館者の増加が期待されることから解説や展示の質を高める。